

いと自然には塞がらず聴力が低下します。

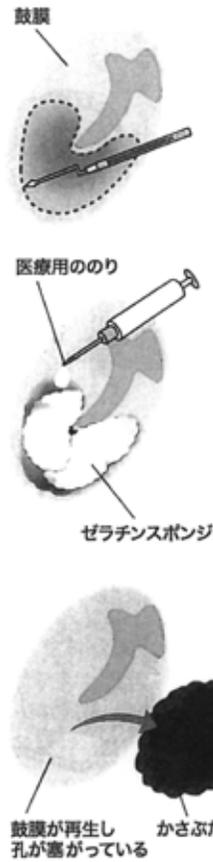
鼓膜に孔が開いたままになり聴力が低下している人は、

わが国だけでも100万人、

全世界で3億人以上いると推計されています。

その中で最も多い原因は慢性中耳炎ですが、特に痛みなどがなかったため、「耳が遠い」「耳が詰まった感じがする」「膿のような耳だれが出る」といった症状があっても、放置している人が少なくありません。

■鼓膜再生療法



① 局所麻酔をして、孔の開いた鼓膜の周縁を切り取ることで、鼓膜を再生させる細胞を活性化させます

② 残っている鼓膜の周縁に、鼓膜の再生を促す薬をしみこませたゼラチンスポンジを詰め、医療用ののりでカバーし固定します。ゼラチンスポンジで足場をつくることで、もとの形の鼓膜が再生します。その過程で膿などが出ることありますが、触ったり、耳に水が入ったりしないようにすることが大切です

③ 3~4週間後、かさぶたをはがし、鼓膜が再生されて孔が塞がっているか確認します。鼓膜より奥に残ったゼラチンスポンジは自然に分解・吸収されていきます

金丸眞一先生提供資料を参考に作成

このような症状に心当たりがあれば、そのままにせず耳鼻咽喉科へ行き、原因を調べる検査を受けましょう。

鼓膜の孔が自然に塞がらない場合の治療には、**鼓膜再生療法、鼓膜形成術、鼓室形成術**などがあります。

鼓膜再生療法は、2019年に保険適用になった新しい治療法です。鼓膜の孔の周辺を切り取って細胞を活性化させ、細胞の成長を助ける薬をしみこませたゼラチンスポンジを詰めて固

定し、鼓膜の再生を促します(左図)。顕微鏡や内視鏡を用いて、日帰りが短期間の入院で実施でき、従来の手術のように耳の後ろを切ることもないため、患者さんの体への負担は最小限で済みます。

鼓膜再生療法が画期的なのは、ほかの組織で代用する再建治療ではなく、自分の鼓膜が新たに再生して聴力が回復する治療だということです。

1回で孔が塞がらないこともあります。再生療法は4回まで可能です。

の後ろを切って、鼓室(鼓膜の奥にある空間)の炎症を取り除き、鼓膜や耳小骨を再構築します。この治療では人工骨を用いる場合もあります。

また、耳硬化症によって難聴になっている場合には、スムーズに動かなくなったアブミ骨を取り除いて、人工骨を入れるアブミ骨手術によって、ほとんどの人は聴力が回復します。

耳硬化症は、片側の耳だけ難聴になったり、耳鳴りを伴ったりすることも多い病気です。

従来から行われていた鼓膜形成術は、鼓膜穿孔がある患者さんに対する治療で、自分の皮下組織の移植で鼓膜の孔を塞ぐ方法です。

一方、重度の慢性中耳炎などの場合には、従来通り鼓室形成術を行います。耳



補聴器を検討する際にも 耳鼻咽喉科受診が必須

一方、感音難聴には、突発性難聴や、薬剤性難聴などの急性難聴、加齢性難聴、騒音性難聴、先天性難聴などの慢性難聴があります。

片方、あるいは両方の耳が急に聞こえにくくなる突発性難聴は、早い段階で気づいてステロイド薬を中心とした治療をすれば聴力が回復する可能性の高い難聴です。抗がん剤や抗菌薬、利尿薬などによっ



て起こる薬剤性難聴では、原因となっている薬の使用を止めることが重要になります。

加齢性難聴や、慢性的に大きい音にさらされることにより生じる**騒音性難聴**は、内耳の蝸牛内にある有毛細胞がダメージを受けることによつて起こります。有毛細胞

は細い毛のような細胞が束になったもので、内有毛細胞が内側に1列、外有毛細胞が外側に3列並んでいて3万個以上あります。狭い部屋で大量の音楽を聴いたあとで聞こ



えにくくなる急性音響障害の場合は、耳を休ませることで回復することもあります。慢性的な騒音や加齢によつてダメージを受けた有毛細胞は一度壊れると元には戻りません。

そのため、慢性の感音難聴の治療は、補聴器を装用することが中心になります。補聴器を使うときには耳鼻咽喉科を受診し、本当に補聴器が必要な状態なのか診断を受けたうえで、医師や言語聴覚士などに相談しながら自分に合ったものを選び、2週間から1か月間試してから購入することが大切です。単に音を大きくする拡声器のようなものや自分に合わないものを使うと、難聴がさらに悪化することも。そのため、注意が必要です。高度の難聴でなければ多くの場合、自分に合った補聴器を使えば、生活や仕事に支障がない程度に聞こえるようになります。

先天性難聴でまったく聞こ

えない、あるいは補聴器では効果が得られないほど高度の難聴は、人工内耳で治療する方法もあります。電気信号に変換した音を内耳の蝸牛の中に埋め込んだ電極に送り、聴神経を介して脳に伝えて音を認識できるようにする治療法です。人工内耳と術後の聴覚リハビリテーションによつて、まったく聞こえなくなった人でも、会話でコミュニケーションが取れるようになってきています。

認知症予防のためにも 難聴の改善は重要

騒音性難聴を予防するには、大音量でテレビを見たり音楽を聴いたりしない、大きな音が常時出ている場所を避ける、騒音下で仕事をしている人は耳栓を使うなどが有効です。世界保健機関(WHO)は、イヤホンやヘッドホンを用い

て大音量で長時間音楽を聴くことなどによって、11億人以上の若者が難聴のリスクにさらされていると警告しています。イヤホンなどで音楽を聴くときには音を小さくし、長時間使わず耳を休ませるようにしましょう。

なお、混合性難聴は、症状と原因に応じて治療します。混合性難聴で補聴器を使う場合、鼓膜に孔が開いていると音が割れて聞き取りにくくなるため、鼓膜再生療法などで孔を修復したうえで補聴器を使うこともあります。

前述のように治療で聴力が回復する場合がありますので、「耳が遠くなった」と感じたら放置せずに耳鼻咽喉科を受診してください。

難聴になると人とのコミュニケーションが取りにくくなつて信頼関係を損ね、家族や社会の中で孤立するばかりか、うつ病や認知症にもなり

やすくなります。難聴になると認知症のリスクが上がるのは、耳から入る情報を処理する聴覚中枢を使わなくなることで血流が低下し、脳の働きが不活発になるのが一因です。認知症を予防するためにも、少し聞こえにくくなったと感じた段階で耳鼻咽喉科を受診して適切な治療を受け、症状を改善することが重要です。

せっかく医学とテクノロジーが進歩した時代に生きているのですから、鼓膜再生療法のような最新の治療や補聴器、人工内耳などを活用することも含め、新しいことにチャレンジする勇氣をもちたいものです。

(出展 『読んで役立つ健康

情報誌 こまごま NO.701

株式会社こまごま社)

秋ごよみ

11月(霜月)	10月(神無月)	9月(長月)	当山行事	歳時記
<ul style="list-style-type: none"> ● 祝聖(朝課にて) 11/12・26 ● 人形供養(瑞法殿) 11/20 午後1時 ● 月例法要(竹生苑)(足立別院) 11/27 午後1時 	<ul style="list-style-type: none"> ● 祝聖(朝課にて) 10/1・15・29 ● 新本堂落慶法要 10/4 午前10時 ● 人形供養(瑞法殿) 10/16 午後1時 ● 月例法要(竹生苑)(足立別院) 10/30 午後1時 	<ul style="list-style-type: none"> ● 祝聖(朝課にて) 9/10 ● 人形供養(瑞法殿) 9/18 ● 秋彼岸 9/20(入り)～9/26(明け) ● 秋彼岸法要(瑞法殿)(足立別院) 9/23 午前10時、午後1時 ● 月例法要(竹生苑)(足立別院) 9/25 午後1時 	<ul style="list-style-type: none"> ● 白露<small>はくろ</small> 9/8 ● 十五夜 9/10 (中秋の名月) ● 秋彼岸入り 9/20 ● 秋分 9/23 (秋彼岸中日) ● 秋彼岸明け 9/26 	<ul style="list-style-type: none"> ● 立冬 11/7 ● 小雪 11/22 ● 霜降 10/23 ● 寒露 10/8

御礼と報告

このたびは、新本堂建設にあたり、檀家様をはじめ皆様方より多大なる御厚志を賜りました。心より御礼申し上げます。

着工から2年近くがたち、思えばこの期間、新型コロナウイルス感染の流行と重なってしまい、不安をかかえながらの決行でした。そのような状況の中、多くの方々のご賛同、ご支援を頂きまして無事に完成への運びとなりましたこと感謝の思いでいっぱいでございます。

本堂完成の式典、落慶法要は来る10月4日（火曜日）となりました。

ご参列者様につきましては当日、混雑が予想されることから、檀家代表、関係者各位様とさせていただきます。ご理解の程よろしくお願い致します。慈恵院はこれからの時代を皆様と共に確りと見据えながら本道を歩んで行く所存でございます。

今後共、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

合 掌

奉納金会計報告

本堂奉納寄附金

令和2年9月1日より

令和4年6月末日まで

総件数 2,842件

総金額 38,087,203円

※皆様のご厚志に対し重ねて御礼を申し上げます。

銅板奉納金

令和3年3月17日より

令和3年11月21日まで

総件数 285件

総枚数 328枚

総金額 1,310,100円

※略儀ながらこの紙面にてのご報告とさせていただきます。

仏教伝道協会

研修報告―比叡山―



慈恵院徒弟 王 王全

初めて佛教伝道協会主催の比叡山の仏道「回峯行」に学ぶ研修に参加させて頂きました。千日回峯行の研修ですが夜中1時に起床して暗い山道を歩きました。なんかいもころびそうになりました。大変でした。6時間連続の早歩きです。回峯行を案内して頂いた僧侶から回峯行修行の話しを聞いたりして、大変勉強になりました。回峯行は山で歩くだけではなく350何か所のお寺と神社にお願をすることです。この貴重な研修に参加させて頂き、御住職と諸先輩に感謝致します。



(比叡山 阿弥陀堂)



慈恵院徒弟 山口 皆登

今回伝道協会に参加させて頂くにあたり不安だったのが回峯行です。48才になった私がどれだけ歩けるのか？と感じていました。先導者から、千日、百日と種類があり、共に大変な修行であると感じました。

《行・不退》1度始めたら退かない。決死の覚悟をすれば、大きな怪我をする事はない。という事でした。

1200年の時を経て、近年のコロナ禍を乗り越えて、受け継がれて来た事のほんの僅かですが、体験させて頂いた事は、とても貴重な経験でした。

新本堂建設進捗状況
(Ⅶ)

建物がついに完成しました。
 ご本尊様はまだですが本堂の中はこんな感じ。
 (8月10日現在)

●本山：東京都府中市浅間町2-15-1 〒183-0001
 TEL.042-365-7676 FAX.042-336-3888
 URL <https://www.jikeiin.jp>

●足立別院：東京都足立区加平1-14-3 〒121-0055
 TEL.03-3628-7676 FAX.03-3628-7679

編集後記

▼コロナはなかなか治まらない
 ですね。お盆に続きお彼岸も
 流れ焼香になるのでしようか。

▼立派な本堂が出来上がったら
 次には中味が問われますね。

壬寅長月 合掌

慈 恵 秋季号 No. 80

令和四年九月一日 発行

発行者 永 田 恵 堂

編集者 田 中 章 恵

発行所 一八三〇〇〇一

府中市浅間町二十五十一
 宗教法人慈恵院編集部

〇四二一三六五七六七六

印刷所 山一印刷有限公司

府中市浅間町三十四一九

〇四二一三六一一五二二二